

「u-Japan政策」

概 要

2005年1月
総 務 省

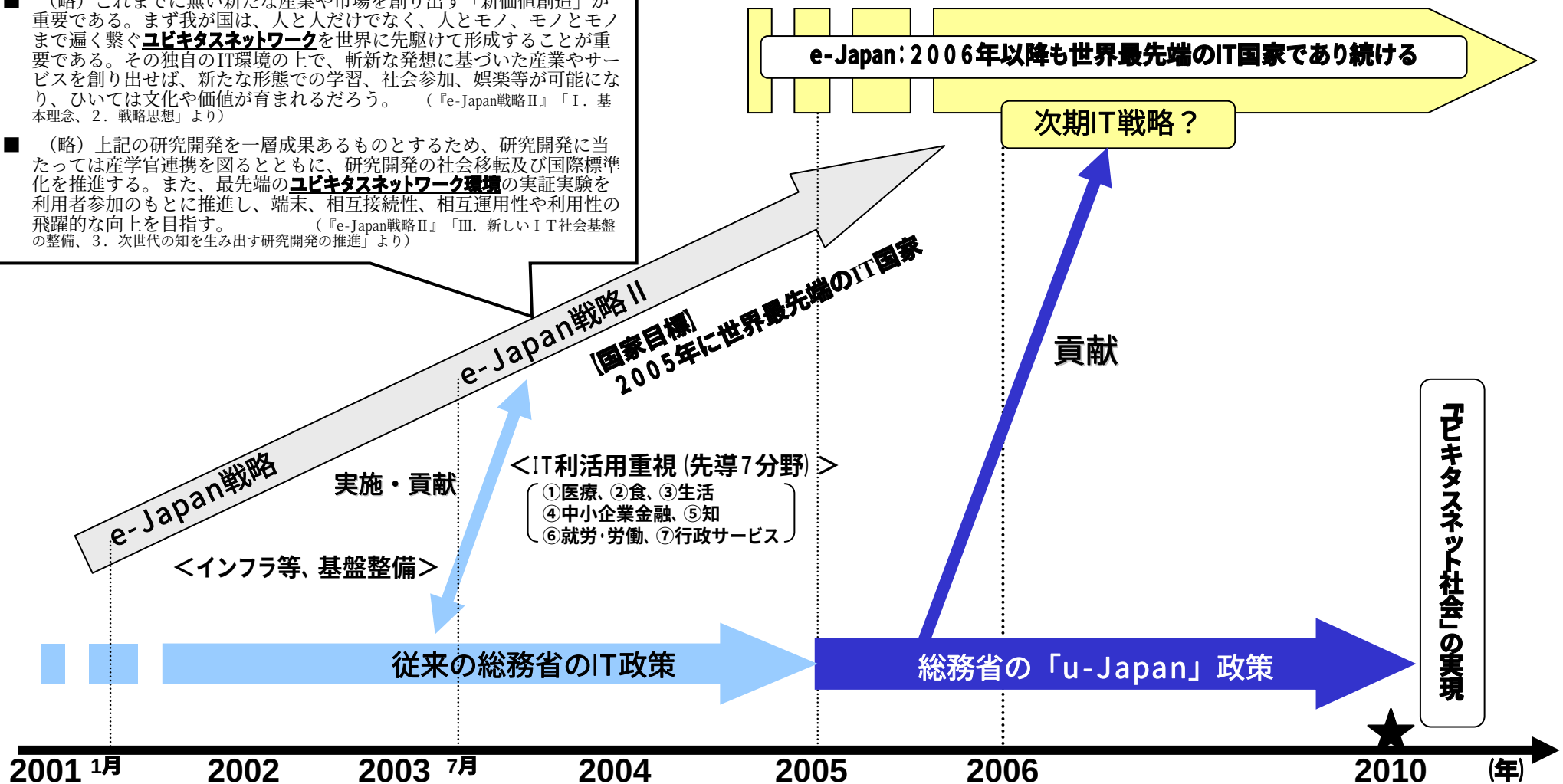
1. u-Japan政策の背景

1-① 「e-Japan戦略」の今後の展開への貢献

- 2010年に「ユビキタスネット社会」の実現を目指す総務省の「u-Japan政策」は、内閣一体となった取組を進めている「e-Japan戦略」の今後の展開に貢献。

e-Japan戦略における「ユビキタス」の位置づけ

- (略) これまでに無い新たな産業や市場を創り出す「新価値創造」が重要である。まず我が国は、人と人だけでなく、人とモノ、モノとモノまで遍く繋ぐ**ユビキタスネットワーク**を世界に先駆けて形成することが重要である。その独自のIT環境上で、斬新な発想に基づいた産業やサービスを創り出せば、新たな形態での学習、社会参加、娯楽等が可能になり、ひいては文化や価値が育まれるだろう。(『e-Japan戦略II』「I. 基本理念、2. 戦略思想」より)
- (略) 上記の研究開発を一層成果あるものとするため、研究開発に当たっては産学官連携を図るとともに、研究開発の社会移転及び国際標準化を推進する。また、最先端の**ユビキタスネットワーク環境**の実証実験を利用者参加のもとに推進し、端末、相互接続性、相互運用性や利用性の飛躍的な向上を目指す。(『e-Japan戦略II』「III. 新しいIT社会基盤の整備、3. 次世代の知を生み出す研究開発の推進」より)



1-② 2010年へ向けた課題とICTの可能性

■ ICT分野は構造改革の優等生、2005年には世界最先端のICT国家へ

- 「2005年までに世界最先端のIT国家となる」というe-Japan戦略の目標は、IT戦略本部を中心とした政府一体の取組を通じ、インフラ面を中心に達成目前。ICTの利活用拡大が当面の課題。今後も目標実現を確実にするため、e-Japan戦略II等を着実に推進。

■ 一方、2006年以降に到来する本格的な少子高齢化社会では、解決すべき課題が山積み

生活・社会

- 2007年からの人口減少の歯止め
- 高齢者の住みやすい環境整備
- 食品の安全性に対する信頼回復
- 地域コミュニティの信頼関係強化

雇用・労働

- 高齢者の就労機会の確保
- フリーター等若年労働者の失業対策
- 育児支援等女性の就労環境の改善
- 実力主義や雇用流動性の確保

医療・福祉

- 遠隔医療等患者中心の医療実現
- 情報公開等による医療過誤対策
- 年金に対する不安解消

教育・人材

- 「数学」「理科」嫌いの増加回避
- 深刻化する青少年犯罪の防止
- 大学・大学院の国際競争力強化

行政サービス

- 引越時等のワンストップサービスの実現
- 電子化・効率化等による財政再建

交通・物流

- 交通事故の削減、渋滞や満員電車の緩和
- 高齢者や障害者に優しいバリアフリー環境の整備

治安・防災

- テロや凶悪犯罪への不安解消
- 地震、台風や大事故等の災害対策
- ピッキング等の治安への不安解消

国際

- 国連等国際機関での発言力の確保
- 戦略的に重要なアジアとの関係強化

環境・エネルギー

- 進展する地球温暖化の歯止め
- ゴミ減量化やリサイクルの強化
- 太陽等自然エネルギーの開発
- 遺伝子操作等バイオ技術の適正利用

経済・産業

- 経済の本格回復・競争力強化
- 製造業等の空洞化の防止
- ICTの経営導入による効率化促進
- 日本文化・芸術の海外進出強化

■ ICTの今後のトレンドは「ユビキタスネット」、その利活用が課題解決の「切り札」となることに期待大

- 情報家電、IPv6、電子タグ、ブロードバンド、デジタル放送等、日本の強みであるユビキタスネットワーク技術が着実に実用化・汎用化
- 老後の不安を解決する介護・福祉支援システム、食の不安を解決する食品トレーサビリティ、治安への不安を解決するホームセキュリティシステム等、先駆的なICTの利活用方法の開発が進展 → ユビキタスネット社会への期待が拡大

■ 2010年の次世代ICT社会の実現へ向けた中期ビジョン (u-Japan政策) が必要に

- 「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」という将来のユビキタスネット社会も手の届くところに。総務省として2010年に実現する新たな社会の姿 (u-Japan) を明確に打ち出すとともに、必要な政策パッケージ (u-Japan政策) を策定。

2. 2010年のu-Japan

2-① u-Japanの理念

u-Japanは、次の特質を備えた2010年の次世代ICT社会

u-Japan (ユビキタスネット・ジャパン)

Ubiquitous (ユビキタス)
あらゆる人や物が**結びつく**

- 「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークに簡単につながる
・ICTが日常生活の隅々まで普及し、簡単に利用できる社会へ
- 人一人に加え、人ーモノ、モノーモノが**結ばれる**
・あらゆる局面で、コミュニケーションがより重要な役割を担う時代に

Universal (ユニバーサル)
人に**優しい**心と心の触れ合い

- 人に優しい
・機器やネットワークを意識せず、誰でも簡単に利用
・ICTで、高齢者や障害者等も元気に社会参加
- 心が**触れ合う**
・心の触れ合うコミュニケーションで、世代や地域を越えた一体感を醸成

User-oriented (ユーザ)
利用者の視点が**融けこむ**

- 利用者に**近い**
・供給側の発想でなく、利用者の利便性をより強く意識した社会へ
・ニーズと強く結びついた技術やサービスを開発
- 利用者が**供給者**にも
・ネットワークの力によって1億総「プロシューマー」化

Unique (ユニーク)
個性ある活力が**湧き上がる**

- 個の活力が**生み出される**
・個人でも夢を持ち新たな挑戦が容易な社会へ
- 社会が**活性化される**
・新しい社会システムやビジネス・サービスが次々創出
・画一を脱し、創意工夫による地域再生を実現

4U = For You

2-② u-Japanの具体的な利用シーン例 (生活面)

おじいちゃんとお孫さんの場合

誕生日には何が欲しいんだい？

アニメをみていたら… あっ、おじいちゃんからメッセージだぞ！

ユビキタス端末でいつでもどこでもアニメを楽しむ

僕、水族館に行きたい！

わかったよ。料金はおじいちゃんが支払うから、バーチャル水族館を楽しんでおいで。

わーっ、サメが大きくなった！まるで自分が海の中にいるみたい。

大画面のバーチャル水族館 音声に反応して画面が対応

自称クリエイターの場合

脚本に手直しを加えたものを送るわね。

脚本担当 Gさん

考えた振付けを実際にやってみるから見られないか。

振付け担当 Eさん

△△役の衣装のイメージができたから見てくれよ。

衣装担当 Hさん

やっとメインテーマ曲が仕上がったわ。どうかしら？

音楽担当 Fさん

マルチ画面でコラボレーション

完成したらネットで配信してみよう。評判がよかったら実際に公演したいな。

立体映像で振付けを配信

誰もが発信者に (ネット上の仲間とミュージカル制作)

u-Japan ICTが生活の隅々に浸透

運転手にも注意を促し 事故の防止に貢献

横断歩道を歩行者が横断しようとしています。

速度を落として注意しなくては。

前方2mに自転車があります。注意して下さい。

センサーが障害物などを察知し、通知

前方5mの横断歩道を右に横断して下さい。

簡単操作で登録した目的地まで誘導

障害者の場合

子供の様子をチェック 連絡事項もメールで確認

お知らせ
明日は遠足なので、8時30集合となります。また、お弁当の用意を宜しくお願いします。
担任 ○○

元気に遊んでいるみたいね。明日はお弁当だから買い物して帰らなくちゃ。

帰宅時間に合わせて 快適な生活をサポート

到着5分後 入浴可能に

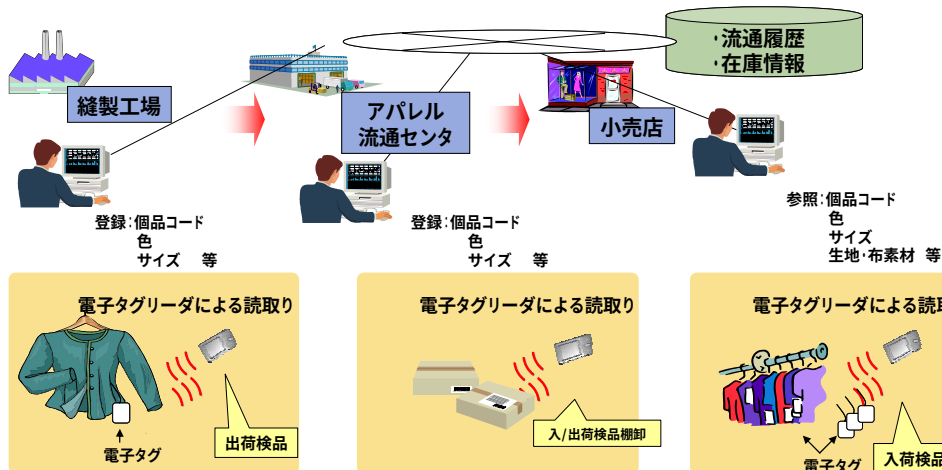
到着時までに 掃除完了

湯上がり10分後に あわせて食事の用意

働く親の場合

2-③ u-Japanの具体的な利用シーン例 (産業面)

企業内における生産管理プロセスの効率化



アパレル企業におけるサプライチェーンマネジメント (受発注・在庫・配送等の管理) の例

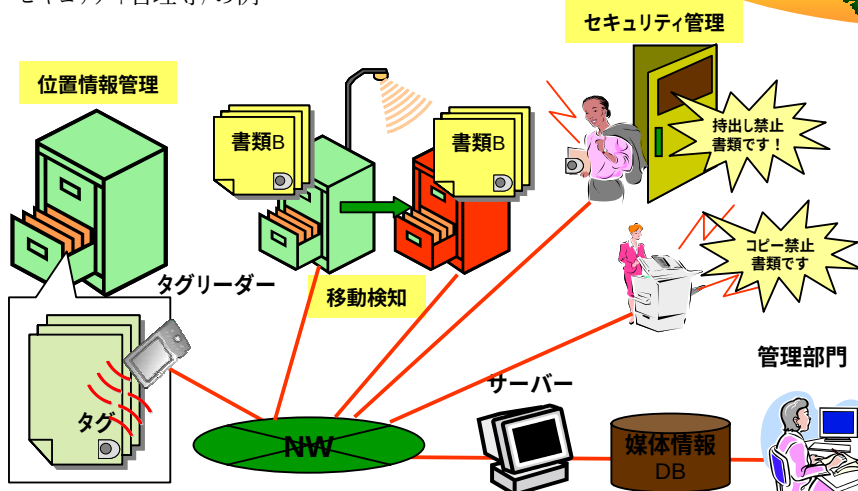
企業間の柔軟なコラボレーションの実現



旅行における利用者の様々なニーズをネット上で企業間連携を行い、一括処理するシステムの例

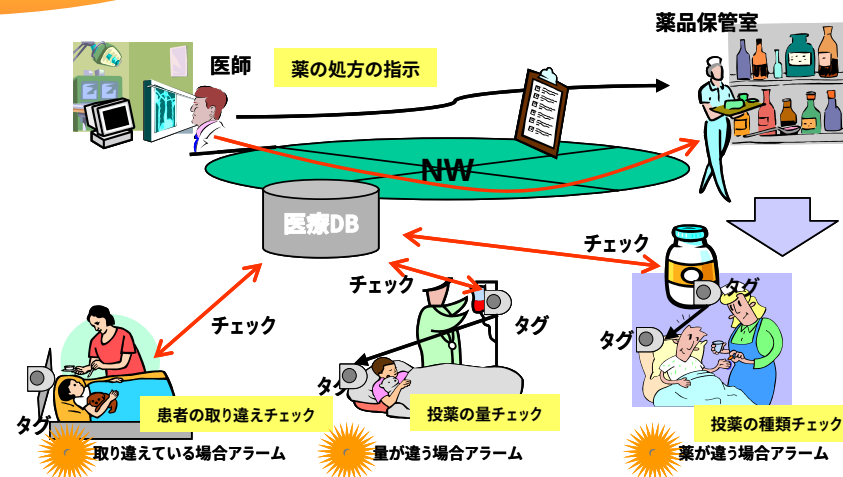
u-Japan
ICTが産業の隅々に浸透

企業内における書類管理システム (書類の位置確認、セキュリティ管理等) の例



企業内における知識経営の高度化

病院等における医薬品の適切で安全な処方、投与等を支援するシステムの例



あらゆる産業におけるICT利用の浸透

2-④ u-JapanにおけるICT産業

u-Japan実現に向けたICT産業の2つの役割

①国際競争力を維持・強化するための日本の技術基盤の抜本強化

→波及性の高いICTの技術基盤を高度化することで、日本の産業全体の技術基盤を底上げ

②ICTの活用による社会的ジレンマの解消

→医療・福祉、治安・防災等の様々な社会的ジレンマが、ICT活用により解消されとの期待

ICT産業の目指すべき方向

①情報化によって社会システムを変革することにより、日本発の技術開発と新ビジネス創出との好循環を発生させること

→戦略的な社会システムの情報化を推進

→日本が先進的ビジネス創出の最先端のテストベッドに

②ICT産業自体の変革に取り組むこと

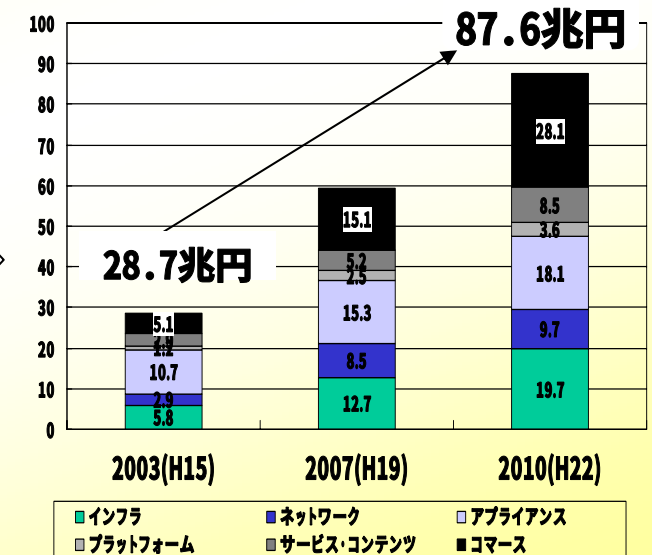
→通信・放送サービスの連携、コンテンツサービス等の発展、コア・コンピタンス(競争優位)の明確化等

→日本の得意分野を活かし、ユビキタス端末やユビキタスネットワークの開発を進め、ユビキタス・サービス市場を拡大

変革に成功

2010年には87.6兆円の市場規模に成長する見通し

(兆円) ユビキタスネットワーク関連の市場規模予測

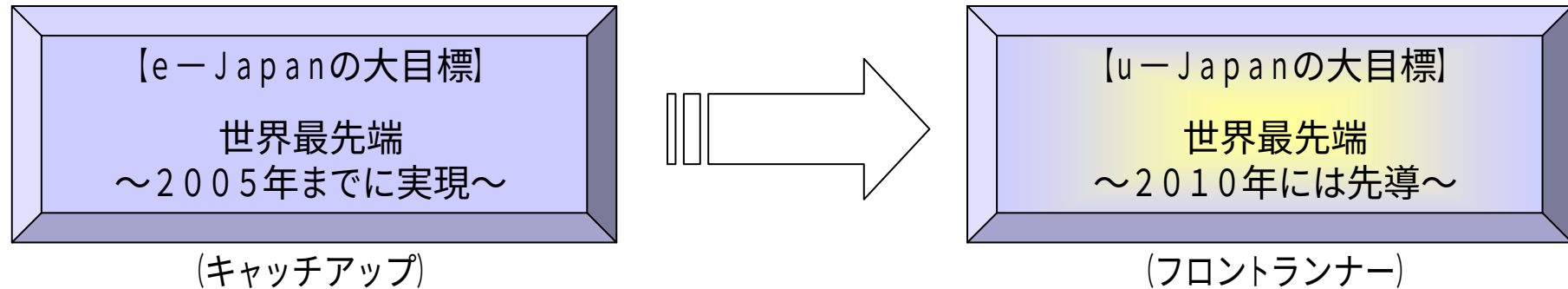


(出典) 平成16年版情報通信白書

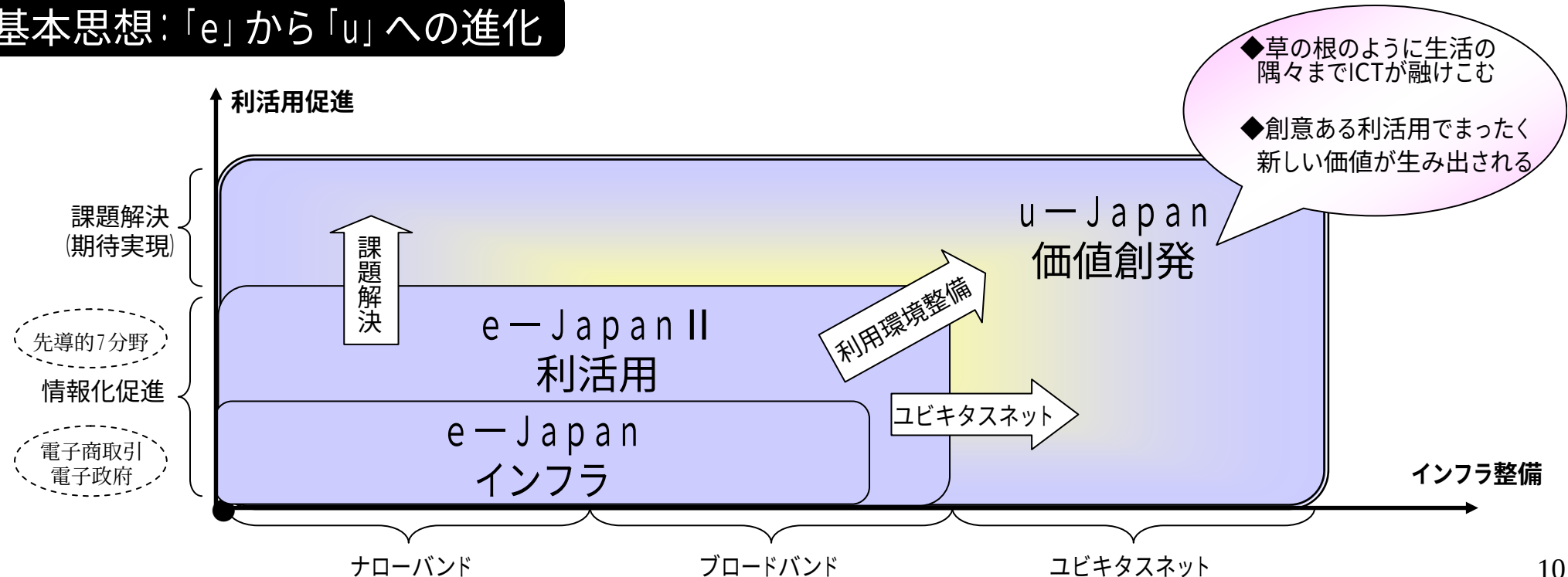
3. u-Japan政策パッケージ

3-① 2010年に向けた政策としての骨格

大目標：フロントランナーとしての2010年の目標設定



基本思想：「e」から「u」への進化



3-② 「u-Japan政策」の特徴

2005年まで

2010年まで

基本軸①：シームレスなユビキタス基盤の整備

インフラ

超高速ネットワークインフラ整備

高速3000万世帯、超高速1000万世帯
※DSL、ケーブル、光ファイバ(有線系を想定)

ブロードバンドから
ユビキタスネットへ

シームレスなユビキタスネットワークの整備

国民の100%が高速または超高速を利用可能な社会に
※有線から無線、ネットワークから端末、認証、データ
交換等を含め、継ぎ目のないネットワーク環境を整備

基本軸②：21世紀の課題解決にICTを利活用

利活用

先導的7分野による利活用促進

医療、食、生活、中小企業金融、
知、就労・労働、行政サービス
※情報化促進の視点が中心

情報化促進から
課題解決へ

社会課題解決型のICT利活用高度化

国民の80%がICTは課題解決に役立つと評価する社会に
※社会システム改革等により、医療・福祉、環境・エネルギー、
防災・治安、教育・人材等の21世紀の課題を解決

基本軸③：ICTの利用環境整備の抜本強化

利用環境

情報セキュリティ対策

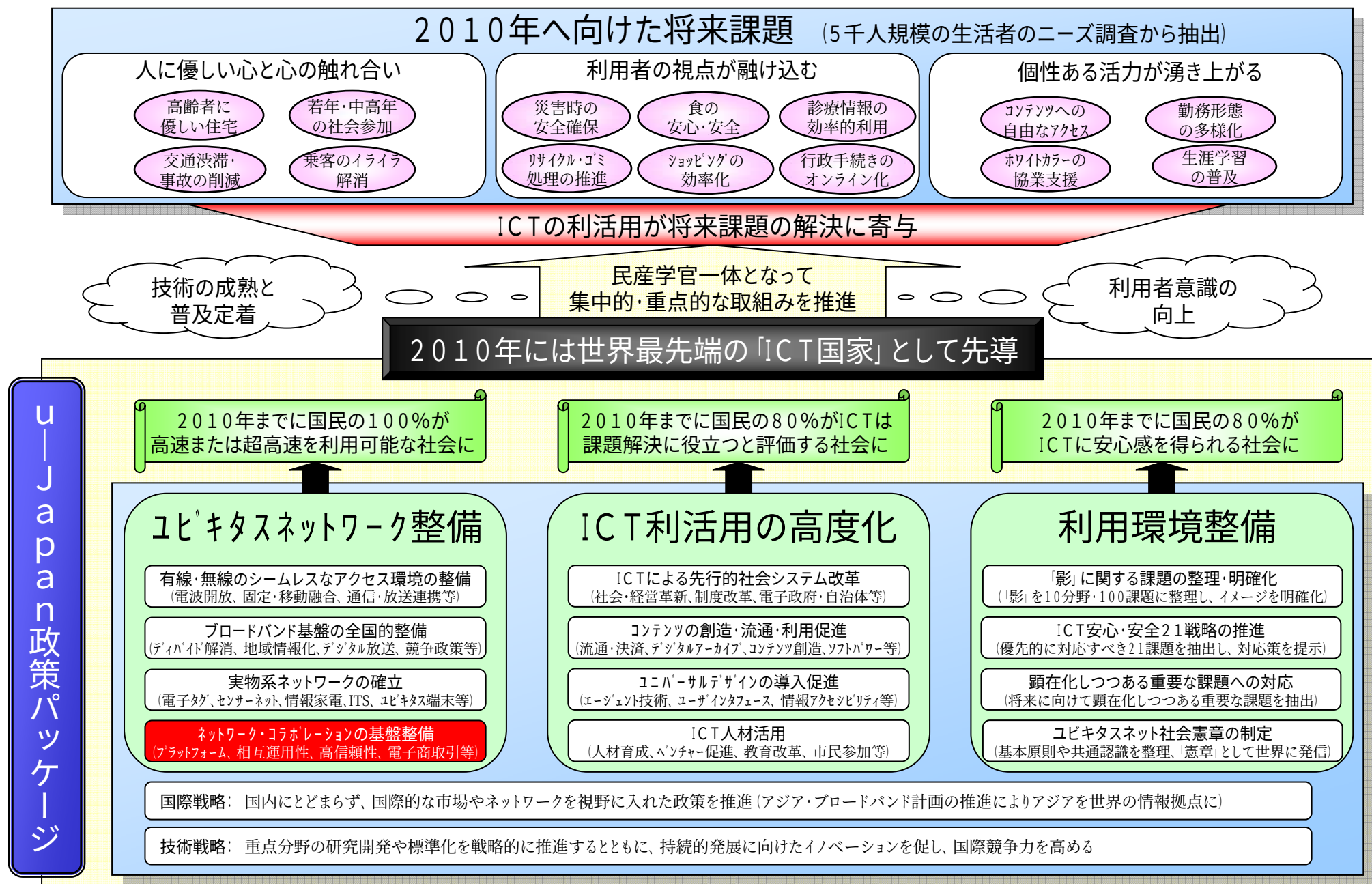
e-Japan戦略IIに「安全・安心な
利用環境の整備」を追加
※情報セキュリティ対策に特化

利用環境整備
を抜本強化

利用環境整備で普及浸透に伴う不安を解消

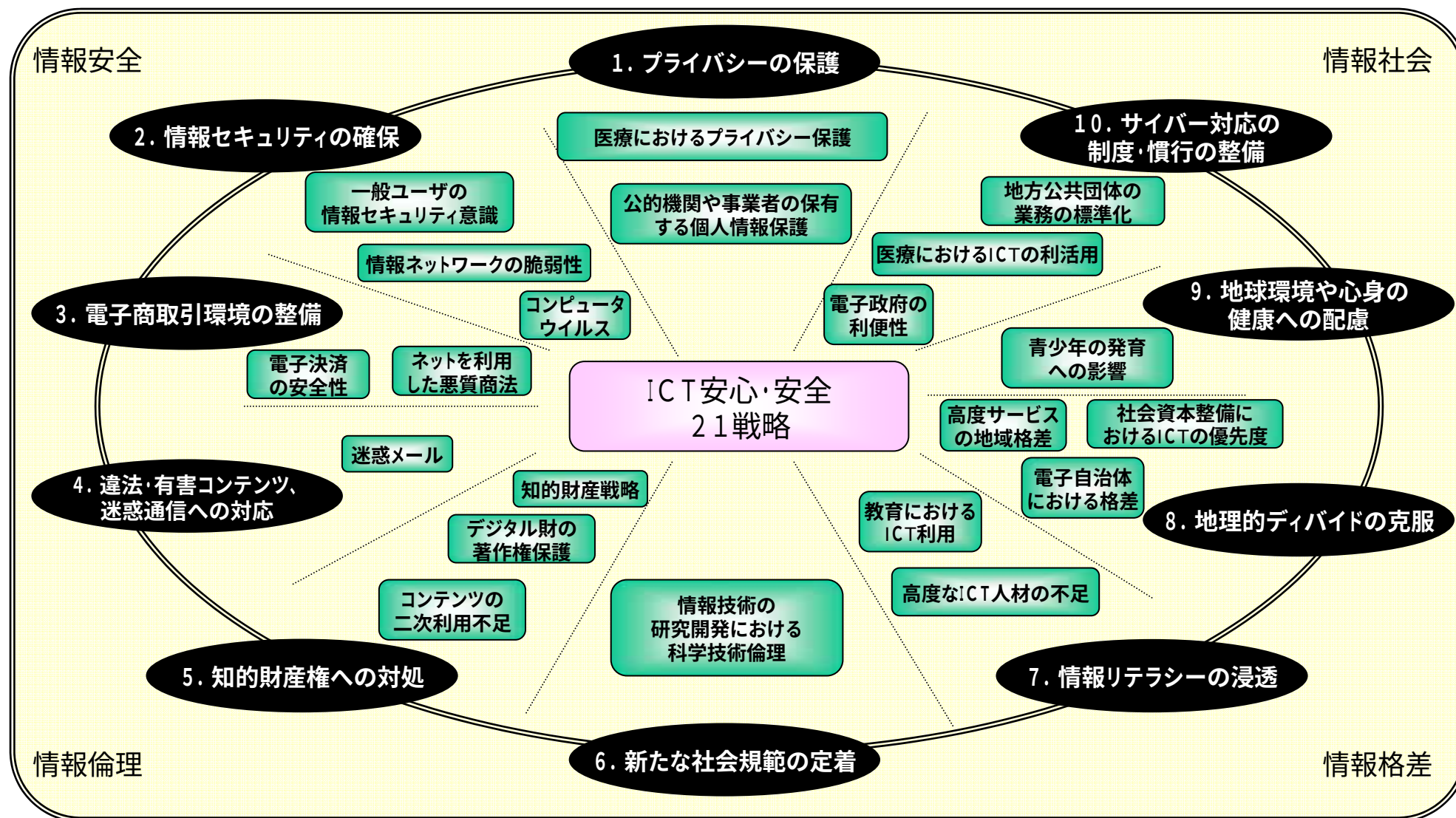
国民の80%がICTに安心感を得られる社会に
※ICT安心・安全21戦略を策定すると共に
ユビキタスネット社会憲章を制定し、世界に発信

3-③ 「u-Japan政策パッケージ」の全体像



【参考1】 「ICT安心・安全21戦略」

優先的に取り組むべき課題として、社会的影響度が高く、対応策が不十分な21課題を10分野の中から抽出し、それらの解決策を利用環境整備の重点戦略として策定。



【参考2】 「ユビキタスネット社会憲章」(案) の概要

ユビキタスネット社会に向けた基本原則や共通認識を総括し、「憲章」として策定

→ 「利益」を最大化し、「不利益」を最小化する枠組みを提唱。国内のルール作りの指針として活用し、世界にも発信。

「ユビキタスネット社会憲章」(案)

前文

- ICTの潜在的可能性、未来社会に向けての役割等
- 「ユビキタスネット社会」の定義、目的、意義等
- 自由で多様な情報流通と安心で安全な情報流通の調和
- 憲章の位置づけ

自由で多様な情報流通

■ 情報の受発信に関する権利

ネットワークへのアクセス、公開情報へのアクセス、ネットワークを通じた情報の発信、地理的デジタルデバイドの解消

■ 情報内容の多様性

コンテンツの多様性の確保、アクセス手段の相互運用性の確保、自由に利用できるコンテンツの充実、公的機関の情報公開の促進

■ 経済社会の情報化

ICTの利活用の推進、電子商取引の健全な発展、公的分野における情報化の推進、利用者の利便性を高める基盤の整備

■ 情報活用能力（リテラシー）

ICTによる利益享受の均等化、専門家の育成、ユニバーサルデザインの確保、分かりやすい言葉や表現の利用

安心で安全な情報流通

■ プライバシー

ネットワークからの独立、個人情報の保護、プライバシーの確保、適正な撮影の確保

■ 情報セキュリティ

ネットワークの安全確保、不適切な利用の回避、セキュリティ技術の開発

■ 知的財産権

著作権等の保護、技術による権利保護

■ 情報倫理

情報倫理の確立、違法・有害コンテンツ等の回避、科学技術倫理、コンテンツ制作者の倫理

調和

サポート

新たな社会基盤の構築

■ 現実社会とサイバー社会の調和

サイバー社会に対応した制度整備、新たな社会規範の確立、循環型社会への配慮
適時適切な政策の実現

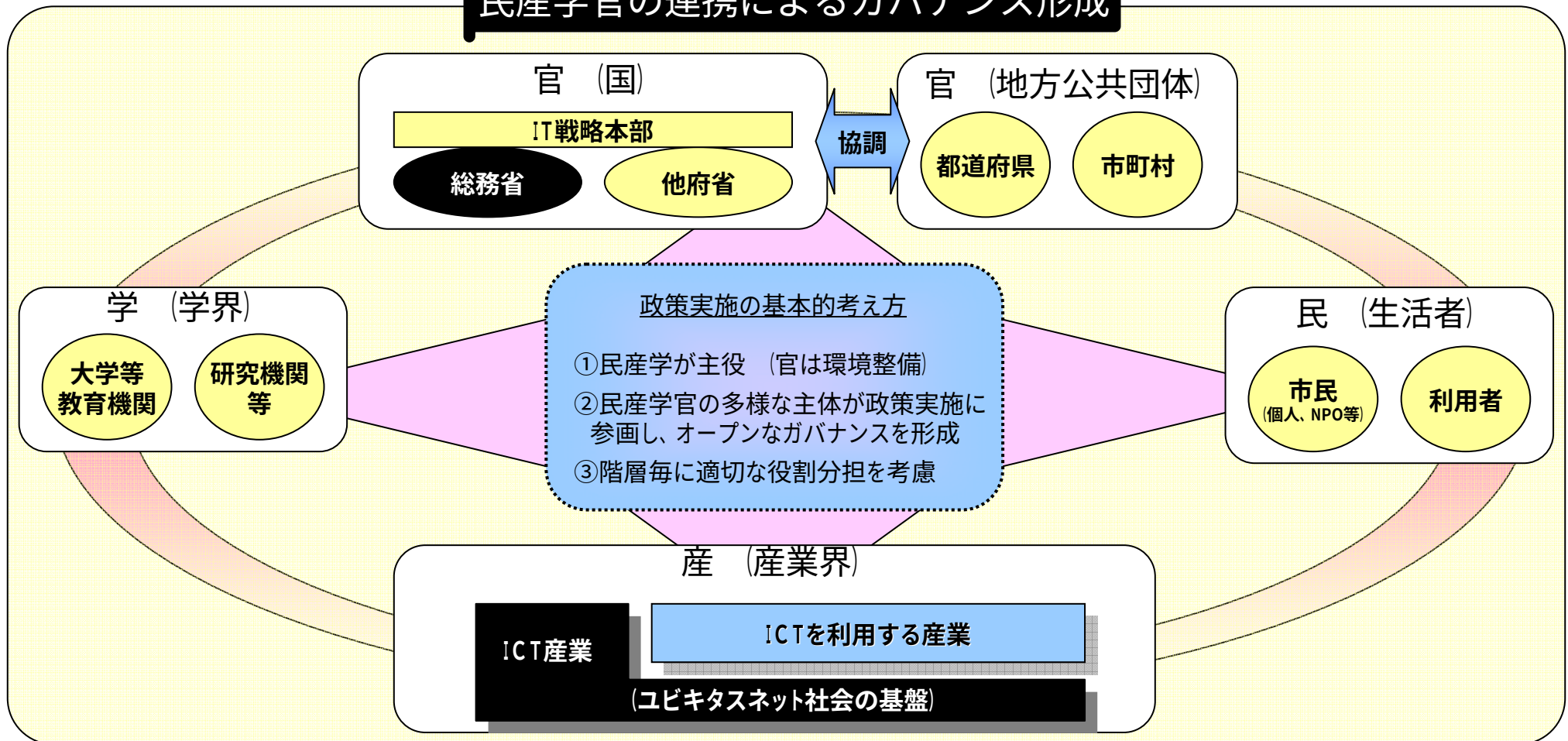
■ 地域的・国際的な協調・協力体制

政策立案への多様な主体の参画、地域社会における協調・協力体制、国際社会における協調・協力体制

3－④ 民産学官の有機的な連携

- ◆ ユビキタスネット社会はわが国の活力を創出 ⇒ 民産学が主役となって社会経済を牽引、官は環境整備や市場原理の補完を適時適切に実行
- ◆ ICTを活用して多様な社会的課題を解決 ⇒ 民産学官の多様な主体が政策実施に参画し、オープンなガバナンスを形成することが不可欠
- ◆ インフラ整備や標準化等での多面的連携が鍵 ⇒ 階層毎に適切な役割分担を考慮

民産学官の連携によるガバナンス形成

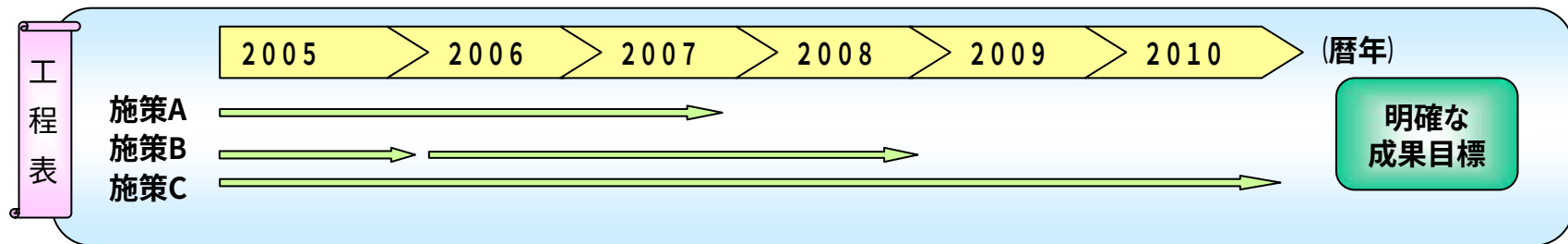


3－⑤ 工程表とPDCA

工程表の策定

u－Japan政策の実効性を高めるため、総務省に対し「工程表」の早急な策定を要請

- ◆ 2005年から2010年までの具体的なスケジュールを明示
- ◆ 明確な成果目標を設定



PDCAの実施

u－Japan政策の進捗管理を行うため、総務省に対し「PDCA」の実施を要請

- ◆ Plan (計画) → Do (実施) → Check (評価) → Act (改善) のサイクルを推進
- ◆ 評価の結果次第では、政策の不断の見直しを実施

